

保育施設の屋外保育環境に関する研究 —福岡市における幼稚園・保育所の園外保育活動と地域環境の利用—

A Study on Outdoor Environments of Childcare and Education
for Childcare Facilities :
Outdoor Activities and the Use of Regional Environment
by Kindergartens and Nursery Schools in Fukuoka City

鈴木 佐代

Sayo SUZUKI

家政教育ユニット

(令和3年9月30日受付, 令和3年12月23日受理)

抄録

本研究は、保育施設における外遊び（戸外活動）の環境の実態を把握し、今後の施設計画や都市・地域環境のあり方を検討するための基礎的資料を得ることを目的とする。2017年に改訂され、その内容が統一された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の園外保育活動に関連する記述内容を整理したうえで、アンケート調査により保育施設の屋外環境と園外保育活動の実態を把握した。園庭の環境、園外保育活動の実施状況、園外保育活動における地域環境の利用について、幼稚園と保育所の特色や子どもの年齢による違いを明らかにした。

1. はじめに

本研究では、乳幼児の健全な発達を促すうえで重要な外遊び（戸外活動）の環境について、保育施設内の屋外環境と、施設外で行う園外保育活動の実態を明らかにし、保育施設の施設計画や都市・地域環境のあり方について知見を得ることを目的とする。近年、子どもの地域社会での体験や自然との触れ合いの機会が減少しており、保育施設での体験や施設内外の環境の重要性が増している。

戸外活動の場である園庭については、都市部の保育施設では、空間的制約や園庭の施設設置基準の緩和^{注1)}等により、園庭を持たない施設や十分な屋外スペースが確保できない施設が見られるようになっており、園庭の代わりに、また園庭とは異なる屋外環境を求めて保育施設周辺の都市環境や地域資源を保育に活用している実態が報告され

ている^{1)~5)}。保育環境という視点から都市環境や地域社会のあり方を検討することが必要となっている。

また、保育の観点からは、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が、2017年に初めて同時に改訂され、その内容が統一された。園外保育活動と幼稚園教育要領や保育所保育指針との関連性については、改訂前の幼稚園教育要領（2008年）、保育所保育指針（2008年）の解説書を用いて、菊地⁶⁾が「散歩活動」について、また、森・横松⁷⁾が「園外へ歩いて出かける活動」について、関連する記述を整理している。幼稚園教育要領と保育所保育指針の違いを明らかにするとともに、菊地⁶⁾は活動の実践例を、森・横松⁷⁾は活動の保育的意義と配慮事項を示した。しかし、内容が統一された2017年改訂の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保

連携型認定こども園教育・保育要領と園外保育活動との関連性は考察されていない。

そこで本研究では、2017年改訂の幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説と園外保育活動との関連性を整理した上で、アンケート調査により保育施設の園外保育活動の実態を把握する。園外保育活動のねらいや活動の頻度、時間、場所、移動手段等について幼稚園と保育所の特色を明らかにするとともに、3歳以上児と3歳未満児の違いも明らかにする。これより保育施設の屋外環境の整備、および乳幼児の戸外活動からみた都市・地域環境のあり方について知見を得ることを目的とする。

2. 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』における園外保育活動に関連する記述の分析と考察

2.1 分析の方法

2017年改訂の幼稚園教育要領解説⁸⁾、保育所保育指針解説⁹⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説¹⁰⁾の「ねらい及び内容」から園外保育活動に関連すると思われる記述を抽出し、3歳以上児の場合を表1に、1歳以上3歳未満児の場合を表2に整理した。3つの解説書の「ねらい及び内容」は同じ内容であるが、若干文言の表現が異なる箇所があるため、表1、2は保育所保育指針解説の記述をもとに作成している。

記述の抽出では、既往研究⁶⁾を参考に「戸外」「地域」「保育所内外（幼稚園内外、園内外）」「保育所の外（幼稚園の外、園の外）」「園外保育」「近隣」「散歩」「訪問」「出かける」をキーワードとして、これらのキーワードを含む具体的記述を抽出した。

2.2 「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」における園外保育活動に関連する記述

「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」において、園外保育活動に関連すると思われる記述は、5領域のうち『健康』『人間関係』『環境』『言葉』の4領域に見られた。まず領域『健康』では「③進んで戸外で遊ぶ。」ことが奨励されており、戸外では思い切り行動することができ、また、子どもの興味や関心を喚起できる自然環境に触れたり、思いがけない出来事と出会うことが多いとあり、子どもの関心を戸外に向けながら、戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを味わうこと

が大切であるとされている。また、園外の具体的な場所として、近隣の公園や広場、野原や川原などが挙げられている。「④様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。」には、楽しんで取り組む活動の一例として、戸外で友達と十分に体を動かして遊ぶことが示されている。

領域『人間関係』の「⑬高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。」には、地域の人と関わる体験を持つことは、人と関わる力を育てる上で大切であると記載されており、具体的な訪問先として高齢者福祉施設が挙げられている。

領域『環境』では4つの内容に園外保育活動に関連する記述がある。「①自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」には、地域の自然と触れ合う機会をつくること、また「③季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。」には、保育所内外の自然や地域社会の人々の生活に日常的に触れることや、四季折々の変化に触れることができるように園外保育を計画することも必要、とある。また「⑥日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」では、地域社会における文化や伝統に触れることや住む地域に親しみを覚えることが大切とされている。「⑩生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。」では、生活に関連の深い施設として図書館や高齢者施設などの公共施設が訪問先として例示されている。「⑫保育所内外の行事において国旗に親しむ。」では、国旗に接する機会として、地域の行事への参加が挙げられている。

領域『言葉』の「⑥親しみを持って日常の挨拶をする。」では、近隣の人と挨拶を交わしたり、気持ちを言葉で伝えたりする姿を示すことにより、子どもも挨拶を交わす心地よさと大切さを学んでいくとある。また「⑩日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。」には、地域の生活の中の文字などの記号が取り上げられている。

2.3 「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」における園外保育活動に関連する記述

「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」において、園外保育活動に関連する記述は、5領域のうち領域『環境』に見られた。「②玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。」では、地域での日常生活で体験したことを玩具や遊具等で見立てたり絵本

表1 『保育所保育指針解説』の「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」における園外保育活動に関連する記述

領域	内容	具体的記述
「健康」	③進んで 戸外 で遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・室内とは異なり、戸外では、子どもは解放感を味わいながら思い切り活動することができる。 ・戸外では子どもの興味や関心を喚起する自然環境に触れたり、思いがけない出来事と出会ったりすることも多く（略）。 ・近年、地域や家庭において戸外で遊ぶ経験が不足していることから、戸外での遊びの面白さに気付かないまま、室内の遊びに偏りがちの子どもも少なくない。 ・保育所では、子どもの関心を戸外に向けながら、戸外の空気に触れて活動するようにし、その楽しさや気持ちよさを味わえるようにすることが必要である。 ・園庭ばかりではなく、近隣の公園や広場、野原や川原などの保育所の外に出かけることも考えながら、子どもが戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わうことができるようにすることが大切である。
	④様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	子どもが楽しみながら取り組む活動には、（略） 戸外 で友達と体を十分に動かして遊ぶことなど様々なものがある。
「人間関係」	⑨高齢者をはじめ 地域 の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は、家庭においても地域においても人間関係が希薄化し、子どもたちの人と関わる力が弱まっている。 ・地域の人たちと積極的に関わる体験を持つことは、人と関わる力を育てる上で大切である。 ・（略）高齢者福祉施設を訪問して交流したりするなど、高齢者と触れ合う活動を工夫してることが大切である。
「環境」	①自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	・自然と触れ合う体験を十分に得られるようにするためには、保育所内の自然環境を整備したり、 地域 の自然と触れ合う機会をつくったりして、子どもが身近に関わる機会をつくるのが大切である。
	③季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所内外の自然や地域社会の人々の生活に日常的に触れ（略）。 ・保育所の外に出かけると、季節による自然や生活の変化を感じる機会が多い。 ・子どもが四季折々の変化に触れることができるように、園外保育を計画していくことも必要である。 ・かつては、地域の人々の営みの中にあふれていた季節感の失われつつある傾向もあり（略）、四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつことも大切である。
	⑥日常生活の中で、我が国や 地域 社会における様々な文化や伝統に親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ、（略）文化や伝統の豊かさに気付くことは大切なことである。 ・（略）地域の人々との関わりを通して、自分たちの住む地域に親しみを感じたりすることが大切である。
	⑪生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。	・図書館や高齢者福祉施設などの様々な公共の施設を利用したり、 訪問 したりする機会を設け、子どもが豊かな生活体験を得られるようにすることが大切である。
	⑫保育所 内外 の行事において国旗に親しむ。	・幼児期においては、保育所や 地域 の行事に参加したりする中で、日本の国旗に接し、（略）。
「言葉」	⑥親しみを持って日常の挨拶をする。	・（略）保育士等同士や保護者や 近隣 の人々とも気軽に挨拶を交わしたり、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝えたりする姿などを示すことにより、子どもも挨拶を交わす心地よさと大切さを学んでいく。
	⑩日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。	・子どもは、家庭や 地域 の生活で、文字などの記号の果たす役割とその意味を理解するようになると、自分でも文字などの記号を使いたいと思うようになる。

表2 『保育所保育指針解説』の「1歳児以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」における園外保育活動に関連する記述

領域	内容	具体的記述
「環境」	②玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。	・保育所や家庭、 地域 での日常生活において実際に経験したことで、玩具や遊具等で見立てたり絵本で読んだりしたイメージとを結び付け、自分なりの遊びの世界を豊かに広げていく。
	⑥ 近隣 の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。	・（略）子どもは日常の遊びにも自分の経験したことを取り入れたりしながら、自分を取り巻く 地域 の自然や伝統文化などに興味を向けるようになってくる。

で読んだりしたイメージと結びつけるとあり、園外保育活動を事後の保育活動と結びつけることができると言えよう。また、「⑥近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。」には、子どもは日常の遊びにも自分の経験したことを取り入れたりしながら、自分を取り巻く地域の自然や伝統文化などに興味を向けるようになってくる、と記述されている。さらに領域『環境』の「内容の取扱い」には、「園庭や保育所外へ散歩に出かけ、そこで様々な生き物に出会い、その姿に興味や関心を抱く。」や「保育所周辺の散策中に会った近隣の住民から声をかけられ言葉を交わしたり(中略)、地域の様々な世代や立場の人の存在を知る。」とあり、散歩に出かけることが生き物や近隣住民と出会う機会となることが記載されている。

以上より、園外保育活動を通して体験したり、学んだりすることができる内容として、子どもが戸外に関心を向ける、体を動かす、地域の自然や生活、文化に触れる、近隣の人々と関わる等が記載されていることが明らかとなった。また、園外の具体的な場所の候補として、公園や広場、野原や川原、高齢者福祉施設や図書館などが例示されていた。

3. 幼稚園と保育所の屋外環境と園外保育活動

3.1 アンケート調査の概要

本研究では、保育施設の屋外環境と園外保育活動の実態把握を行うために、福岡市内の認可保育所、幼稚園、認定こども園を対象にアンケート調査を行った。調査対象施設の選定は、認可保育所、認定こども園については、福岡市の行政資料¹¹⁾に記載されている公立と私立の施設を、幼稚園については福岡市私立幼稚園連盟ホームページ¹²⁾に記載されている施設を対象とした。なお、調査時、福岡市内に公立幼稚園はなく、幼稚園はすべて私立幼稚園であった。

調査は、2020年12月にアンケート票を郵送で配布・回収する方法により実施した。アンケート調査の概要を表3に示す。認可保育所110施設、認定こども園3施設、幼稚園33施設より回答を得た。分析にあたっては、認定こども園は、3歳未満児と3歳以上児の両方を対象とする点で認可保育所と共通することや、施設数・回収数ともに少ないことから、認可保育所に含めて分析する。以下では両施設をまとめて「保育所」と称す。

アンケート調査項目は、表3に示すように保育

施設の属性と建物概要、敷地内の外遊びのための屋外・半屋外空間の実態と評価、園外保育活動の実施状況、園外保育活動でよく利用する公園、保育施設の周辺環境の実態等である。表3の調査項目は、既往研究^{2)~4)}を参考に作成した。なお、本調査では、園外保育活動を散歩などの保育施設周辺に出かける屋外の活動のことで、遠足などのイベントは含まないと定義した。

表3 アンケート調査の概要

調査対象施設	配布数	回収数	回収率
認可保育所*	259	110	42.5%
認定こども園	8	3	37.5%
幼稚園	117	33	28.2%
〈調査項目〉			
保育施設の属性と建物概要／敷地内の外遊びのための屋外・半屋外空間の実態と評価／園外保育活動の実施状況／園外保育活動でよく利用する公園／保育施設の周辺環境の実態			

*分園は含まない

3.2 調査対象施設の概要

調査対象の幼稚園は、先述したようにすべて私立幼稚園である。園児定員は、60人台から400人以上までさまざまである(図1)。また全施設が独立した園舎と運動場(園庭)を持つ。一方、保育所は、公立が4件(3.5%)、私立が108件(95.6%)、不明が1件である。園児の定員は、60人未満から300人以上まで幅広く分布するものの、60人以上から180人未満までが8割を占める(図1)。園舎は、保育施設として独立している独立型が107件(94.5%)で、高齢者福祉センター、公民館など他の建物に併設している併設型が6件(5.3%)である。また、園庭を持たない施設が6件ある。

3.3 施設内の屋外環境と戸外活動の時間

(1) 園庭面積および設備・遊具の保有状況

園庭面積と設備・遊具類の保有状況より、施設内の戸外活動の環境を把握する。

園庭の面積は、保育所は、100m²以上から700m²未満が多く、この区間で約8割を占める(図2)。幼稚園は、400m²以上から5000m²台までさまざまであり、保育所に比べてかなり広い園庭を持つ施設がある。園庭の設置基準^{注2)}が幼稚園と保育所とで異なることや、園児数の違い(図1)

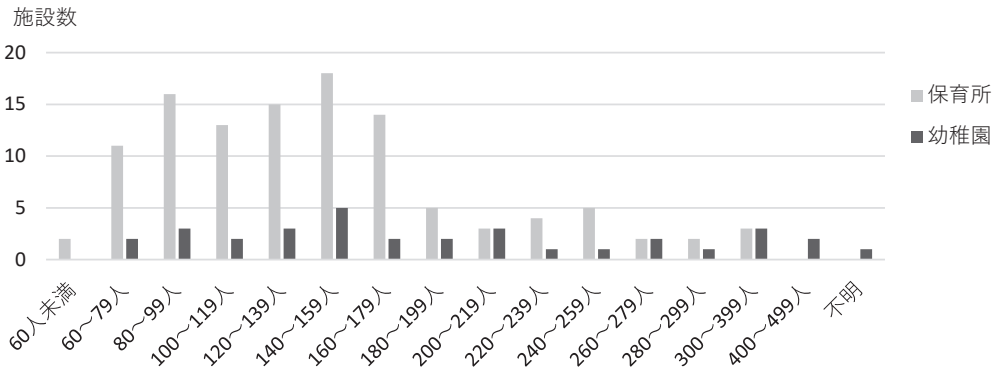


図1 園児の定員

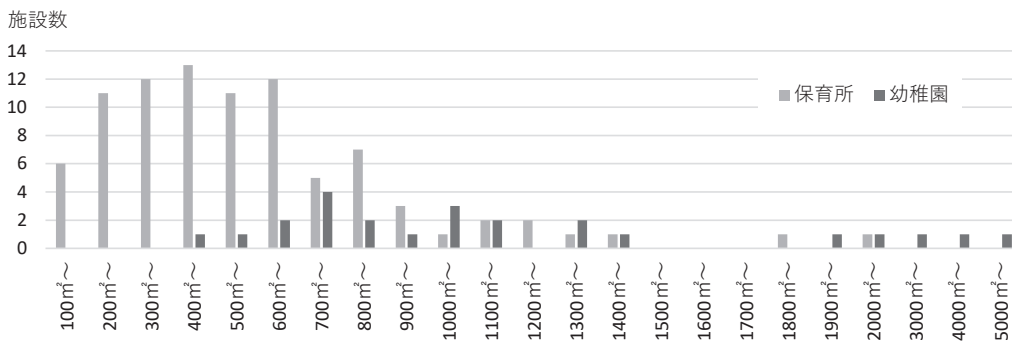


図2 園庭の面積 (園庭なし, 園庭面積不明を除く)

が理由と考えられる。

また、外遊びのための屋外・半屋外空間（園庭、テラス、ベランダ、屋上等）にある設備・遊具の種類を図3に示す。「固定遊具」「砂場」「手洗い場」「花壇（プランター含む）」「倉庫」の保有割合が高い傾向は、幼稚園と保育所とで大きな違いはない。また、図3の中で自然の環境要素に着目すると、「花壇（プランター含む）」（幼87.9%、保78.6%）の保有率は幼稚園、保育所ともに高いが、「畑」（幼36.4%、保30.4%）、「築山」（幼18.2%、保25.0%）、「池」（幼12.1%、保3.3%）の保有率は両施設ともに低い。また「森や大きな樹木」（幼45.5%、保28.6%）は、保育所において、より保有率が低い。保育所に園庭がない施設や園庭面積が狭い施設があることが関係していると思われる。

(2) 施設内での戶外活動の時間

施設内で行う外遊びの時間（1日当たりの時間）を図4に示す。幼稚園の3～5歳児は「60分以上90分未満」が多い。保育所の3～5歳児の外遊びの時間は施設によりさまざまであるが、90分以上の戶外活動を行う施設が半数以上を占めている。同じ年齢でも、保育時間が長い保育所の方

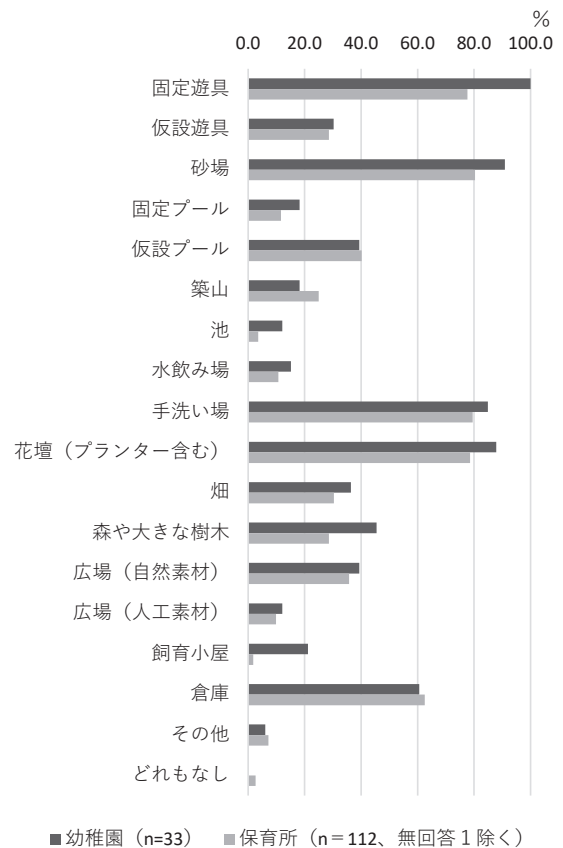


図3 屋外・半屋外空間にある設備・遊具 (複数回答)

が戸外活動の時間を長く取っている。また、0～2歳児は、3～5歳児に比べて時間が短く「30分以上60分未満」が多い。

3. 4 園外保育活動の実施状況と地域環境の利用
(1) 園外保育活動の頻度と所要時間

保育施設外で行う園外保育活動の頻度を表4に示す。なお、頻度は保育施設全体で実施する園外保育の頻度であり、園児一人当たりの頻度ではない。

幼稚園は「数か月に1日程度」(42.4%)が最も多く、週に何回も園外保育を行う施設は少ない。一方、保育所は「ほぼ毎日」(22.1%)や「週2～3回」(17.7%)のように高頻度で外出する施設が多い。保育所では週に1回以上園外保育を行う施設が53.1%を占めており、園外保育は日常的な保育活動として行われていると言える。

また、園外保育の1回あたりの所要時間を図5に示す。保育所の3～5歳児は、「60分以上90分未満」が多いが、幼稚園3～5歳児は「120分以上180分未満」や「180分以上240分未満」など2時間以上かけて園外保育を行う施設も見られる。

0～2歳児では、「30分以上60分未満」(0歳児：62.8%，1歳児：63.7%，2歳児：57.1%)が6割を占めるが、0歳児では「30分未満」(27.9%)，2歳児では「60分以上90分未満」(23.5%)もあり、0～2歳児の間は年齢による違いが大きい。

表4 園外保育活動の頻度

	幼稚園		保育所	
	件数	%	件数	%
ほぼ毎日	1	3.0	25	22.1
週2～3日	3	9.1	20	17.7
週1日	1	3.0	15	13.3
月2～3日程度	4	12.1	20	17.7
月1日程度	7	21.2	9	8.0
数か月に1日程度	14	42.4	7	6.2
園外活動はしない	3	9.1	7	6.2
その他	0	0.0	9	8.0
不明	0	0.0	1	0.9
総計	33	100.0	113	100.0

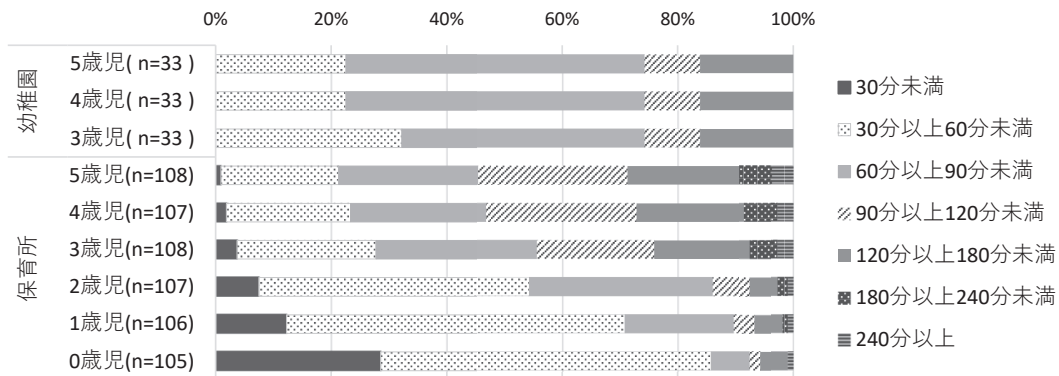


図4 1日当たりの外遊びの時間

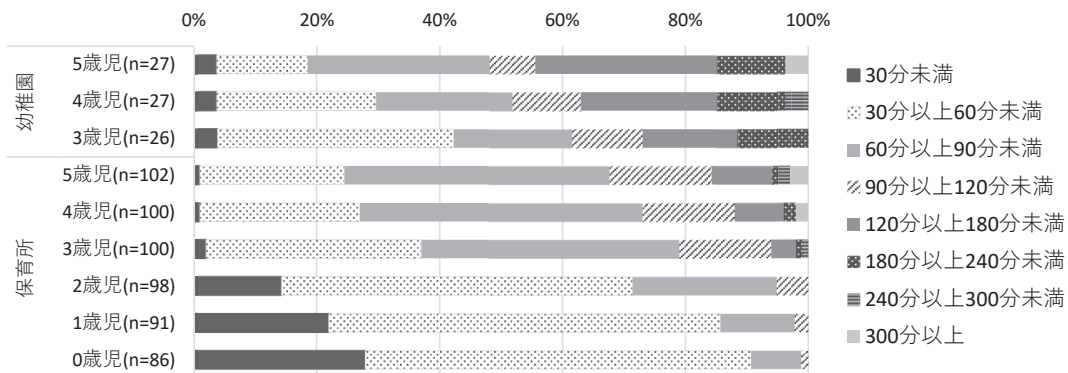


図5 園外保育活動の所要時間

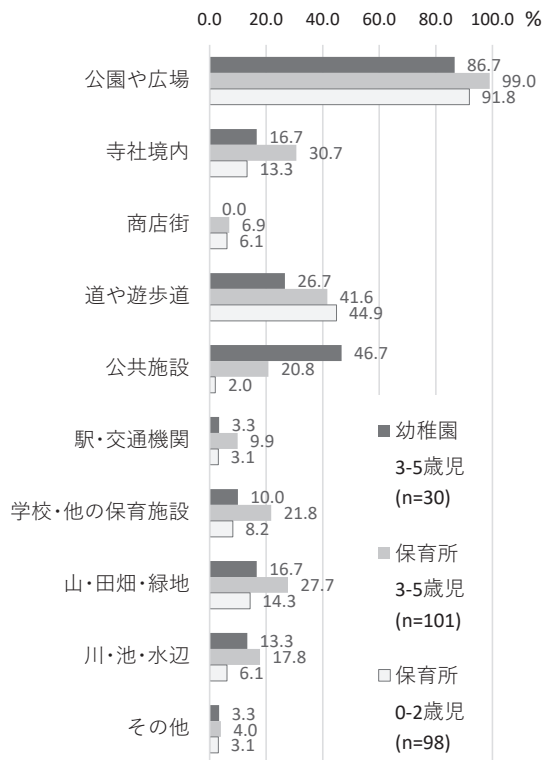


図6 園外保育活動でよく利用する場所（複数回答）
注）園外保育活動をしていない施設・無回答の施設を除く

(2) 園外保育活動でよく利用する場所

園外保育活動でよく利用する場所を図6に示す。

1) 3歳以上児の活動場所

3～5歳児の園外保育活動でよく利用する場所は、幼稚園では「公園や広場」(86.7%)が最も多く、次いで多いのが「公共施設」(46.7%)である。「公園や広場」(99.0%)が多い点は保育所も同じであるが、2番目に多いのは「道や遊歩道」

(41.6%)であり、「公共施設」(20.8%)は幼稚園ほど多くない。また、「寺社境内」(幼16.7%, 保30.7%),「学校・他の保育施設」(幼10.0%, 保21.8%),「山・田畑・緑地」(幼16.7%, 保27.7%),「川・池・水辺」(幼13.3%, 保17.8%)は、これらの場所が保育施設周辺にあるとは限らないため、全体的に利用する施設が少ないが、幼稚園と保育所を比較すると保育所の方が利用している。

2) 3歳未満児の活動場所

0～2歳児の園外保育においても3～5歳児と同様に、多くの施設が「公園や広場」(91.8%)を利用している。また、0～2歳児の特徴としては「道や遊歩道」(44.9%)の利用が3～5歳に比べて多いことが挙げられる。保育施設周辺の「道や遊歩道」は、0～2歳児の園外保育にとって重要な場所であり、その環境が果たす役割は大きいと言える。

(3) 園外保育活動の移動手段

園外保育活動の際の移動手段を図7に示す。

1) 3歳以上児の移動手段

3～5歳児の主な移動手段は徒歩であるが、5歳児になると約2割(幼24.1%, 保19.6%)の施設が電車やバスなどの公共交通機関を利用している。また、幼稚園では園のバスも利用しており、施設周辺ではなく、施設から離れた場所で園外保育を行っている可能性がある。

2) 3歳未満児の移動手段

0～2歳児の移動手段は、0歳児は大型ベビーカーと徒歩、1歳児は徒歩と大型ベビーカー、2歳児は徒歩である。乳幼児が徒歩で安全に通行できる環境が重要であることは当然であるが、大型ベビーカーでの移動を考慮した道路や公園の整備が求められる。

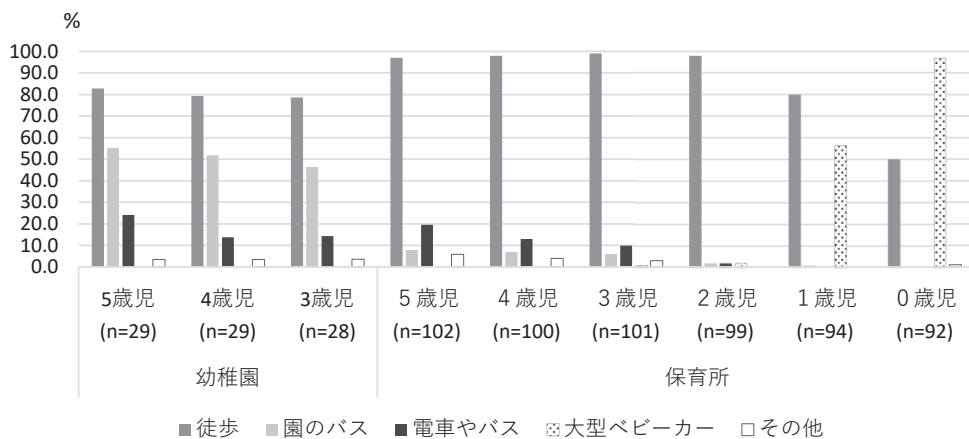


図7 園外保育活動の移動手段（複数回答）

(4) 園外保育活動の目的

園外保育活動の目的を図8に示す。

1) 3歳以上児の園外保育活動の目的

幼稚園と保育所の5割以上が選択した上位6項目は、「自然（植物）とのふれあい」（幼83.3%、保98.0%）、「自然や生活の季節の変化を感じる」（幼73.3%、保89.1%）、「交通ルールを学ぶ」（幼66.7%、保93.1%）、「自然（生き物）とのふれあい」（幼60.0%、保71.3%）、「体力増進や運動能力の向上を図る」（幼56.7%、保82.2%）、「公共マナーを学ぶ」（幼56.7%、保71.3%）である。いずれも保育所の方が選択率が高い。

一方、「健康を保持する」（幼23.3%、保67.3%）、「地域の人との交流」（幼20.2%、保67.3%）、「気分転換」（幼13.3%、保54.5%）、「文字や標識を見る」（幼6.7%、保65.3%）は、保育所の5割以上が選択したが、幼稚園では25%以下と低く、幼稚園の多くはこれらを園外保育の目的としていない。全体的に保育所の方がより多くの項目を選択していることから、保育所では園外保育を自然事象や社会的事象などさまざまな体験ができる総合的な活動として捉えていると推察される。

また、「災害時の避難所に行く練習をする」（幼20.0%、保36.6%）、「まちの中にある彫刻や芸術作品をみる」（幼0.0%、保9.9%）は、幼稚園、保育所ともに選択率が低かった。

2) 3歳未満児の園外保育活動の目的

0～2歳児の園外活動で、選択率が高い（6割以上）のは、「自然（植物）とのふれあい」（94.9%）、「自然や生活の季節の変化を感じる」（76.5%）、「体力増進や運動能力の向上を図る」（69.4%）、「健康を保持する」（60.2%）、「気分転換」（68.4%）である。自然や季節の変化の体験、体力・健康能力の向上、健康保持を活動の目的とする点は、保育所の3～5歳と同じであるが、「気分転換」は3～5歳より多い。0～2歳児では、施設外に出ること自体が園外保育の目的となっている。

(5) 園外保育活動の行先・経路の重視点

園外保育活動の行先や経路を決める最に重視していることを図9に示す。

1) 3歳以上児の重視点

3～5歳児の園外保育で重視することとして、幼稚園の8割以上、保育所の9割以上が選択し

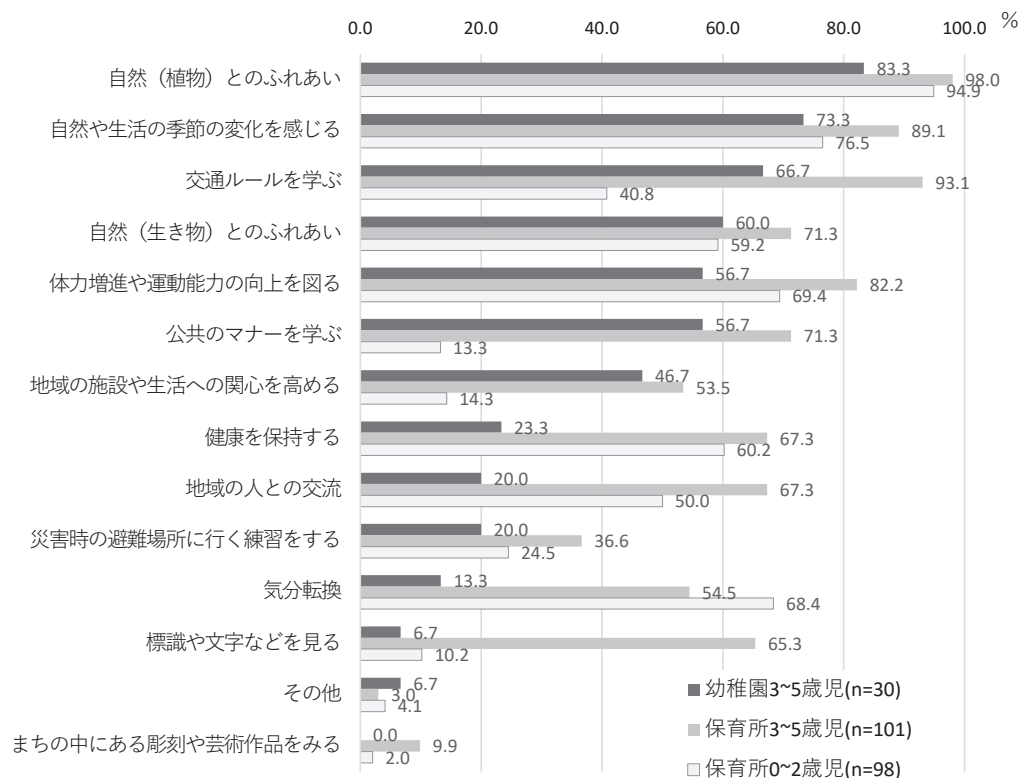


図8 園外保育活動の目的（複数回答）

注）項目は幼稚園の選択率が高い順に並べている

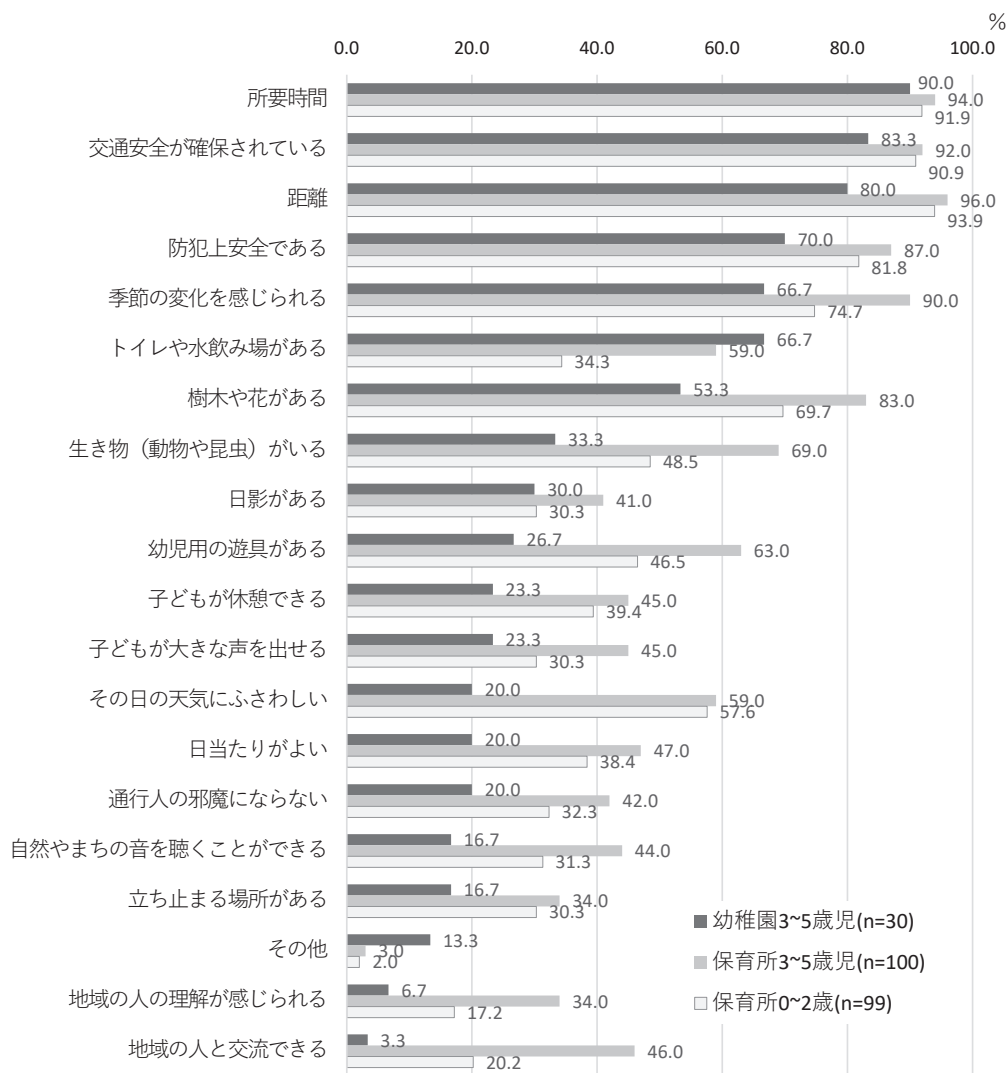


図9 園外保育活動の行先や経路の重視点(複数回答)

注) 項目は幼稚園の選択率が高い順に並べている

たのが「所要時間」(幼90.0%, 保94.0%), 「交通安全」(幼83.3%, 保92.0%), 「距離」(幼80.0%, 保96.0%)の3項目である。また, 「防犯上安全である」(幼70.0%, 保87.0%), 「季節の変化を感じられる」(幼66.7%, 保90.0%), 「トイレや水飲み場がある」(幼66.7%, 保59.0%), 「樹木や花がある」(幼53.3%, 保83.0%)は5割以上の施設が選択した。上記の7項目以外は, 幼稚園での選択率が低くなり, 特に「地域の人と交流できる」(幼3.3%, 保46.0%), 「地域の人と交流を感じられる」(幼6.7%, 保34.0%)は, 幼稚園ではほとんど重視されていない。図8で示したように「地域の人との交流」を園外保育の目的とする施設が少ないことや, 図7に示したように園のバスを利用して直接目的地に

行くという移動方法が関係していると思われる。

2) 3歳未満児の重視点

0~2歳児の重視点をみると, 選択率9割以上が「距離」(93.9%), 「所要時間」(91.9%), 「交通安全」(90.9%)の3項目で, 7割以上が「防犯上安全である」(81.8%), 「季節の変化を感じられる」(74.7%), 「樹木や花がある」(69.7%)の3項目であった。上記項目の選択率が高い点は3~5歳児と同様である。一方, 「トイレや水飲み場がある」(34.3%), 「地域の人と交流を感じられる」(17.2%), 「地域の人と交流できる」(20.0%)については, 3~5歳児ほどには重視していない。

(6) コロナ禍の園外保育活動

新型コロナウイルスの感染拡大によって園外活動の内容を変更したかどうかの結果を図10に示す。「変更なし」(幼31.0%, 保25.5%)もあるが、「回数を減らす」(幼51.7%, 保58.8%),「行先を変更する」(幼27.6%, 保25.5%),「遊び内容を変更する」(幼13.8%, 保19.6%)などのさまざまな変更を行っており,特に「回数を減らす」は5割を超えた。新型コロナの感染拡大は園外保育活動に大きく影響したと言える。

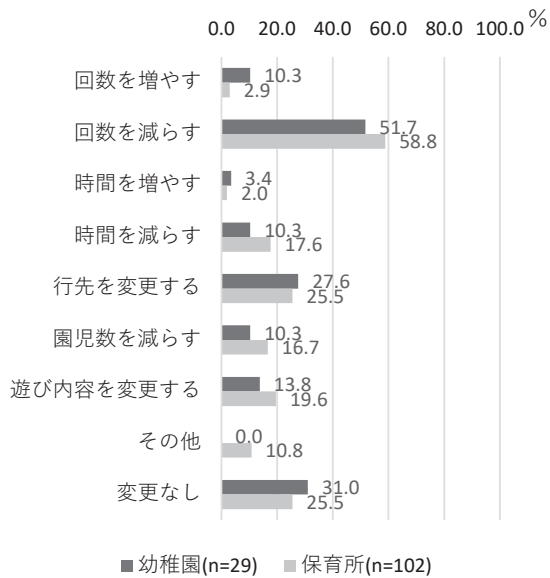


図10 コロナ禍の園外保育活動(複数回答)

4. まとめ

本研究では、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の園外保育活動に関連する記述の分析と、アンケート調査による幼稚園と保育所の屋外環境と園外保育活動の実態把握を行った。

1) 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説のねらい及び内容の記述の分析より、3歳以上児の保育では、『健康』、『人間関係』、『環境』、『言葉』の4領域に、また、1歳児以上3歳児未満の保育では、領域『環境』の内容に、園外保育活動に関連する記述が見られた。戸外に関心を向ける、体を動かす、地域の自然や生活、文化に触れる、近隣の人々に関わる等、地域の環境や資源を利用する保育内容が記載されていた。また具体的な場所として、公園や広場、野原や川原、高齢者福祉施設や

図書館などが例示されていた。

- 施設内の屋外環境については、園庭面積は幼稚園の方が広いが、屋外・半屋外空間にある設備・遊具類の中で「固定遊具」「砂場」「手洗い場」「花壇(プランター含む)」「倉庫」の保有割合が高い傾向は、幼稚園と保育所とに共通していた。「森や大きな樹木」の保有割合は、幼稚園(45.5%)と保育所(28.6%)の差が大きい。
- 園外保育活動は、幼稚園では「数か月に1回」実施する施設が多い(42.4%)が、保育所では「毎日」や「週2~3日」「週に1回」のように高頻度で行う施設が53.1%を占める。保育所の方が、日常的な活動として園外保育を行っている。
- 園外保育活動では、施設種別や子どもの年齢に関わらず、ほとんどの施設が「公園や広場」を利用している。地域の「寺社境内」,「山・田畑・緑地」「川・池・水辺」は、保育施設の立地によって利用が限られるため、計画的に配置できる公園の重要性は高いと言える。また「道や遊歩道」も目的地までの経路ではなく活動場所とされていた。「道や遊歩道」の利用割合は0~2歳児において高く、活動の範囲が空間的、時間的に限られる0~2歳児にとって保育施設周辺の「道や遊歩道」の環境はより重要である。一方、「公共施設」は幼稚園での利用が多かった。

園外保育活動の際の主な移動手段は徒歩であるが、0,1歳児は大型ベビーカー、5歳児になると電車やバスなどの公共交通機関、幼稚園では園のバスなども使用しており、移動手段は多様であった。

- 園外保育活動の目的は、幼稚園と保育所の3~5歳児に共通して、自然とのふれあい、季節の変化を感じる、交通ルールを学ぶ、体力増進・運動能力の向上、公共マナーを学ぶ等であった。加えて保育所では、健康を保持する、地域の人との交流、標識や文字などを見る等も園外保育の目的として捉えていた。

一方、0~2歳児では気分転換も園外保育の目的とされていた。

- 園外保育活動の行先や経路の選択では、交通安全が重要視されている。保育施設周辺や活動場所までの経路は、乳幼児が徒歩や大型ベビーカーで安全に通行できる道路や歩道の環境整備が求められる。

また、距離と所要時間も重視されているが、

実際の園外保育の所要時間は、保育所の0～2歳児は「30分以上60分未満」が、3～5歳児は「60分以上90分未満」が多かった。幼稚園の3～5歳児では2時間以上の園外保育を行う施設も見られた。

- 7) 施設種別および子どもの年齢にかかわらず、自然の動植物とのふれあい、季節の変化を感じることが園外保育の目的とされており、また、樹木や花があり、季節感がある場所や経路が選択されている。施設内に花壇がある施設は多いが、森や大きな樹木、畑、築山、池などを持つ施設は多くない。保育施設周辺や園外保育の場となる公園や街路には、季節感のある自然の環境を豊かにすることが望まれていると言える。

今後は、園外保育活動に同行した観察調査や保育者対象のインタビュー調査を行い、保育施設の屋外環境や都市・地域環境に対する、より具体的なニーズや課題を明らかにしたい。

謝辞

アンケート調査にご協力いただきました保育施設の皆さまに心より感謝申し上げます。また、調査票の作成にあたり多くの助言をくださった秋武由子氏、岡俊江氏、豊増美喜氏、前田聖悟氏に記して感謝申し上げます。

補注

注1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長「待機児童解消に向けた児童福祉施設最低基準に係る留意事項等について」(平成13年3月30日 雇児保発第11号)より、待機児童解消に向けて、屋外遊戯場の認定に緩和政策がとられるようになり、保育所と同一敷地内に屋外遊戯場を設けることが困難な都市部等において、代替場所として公園、広場、神社境内等の利用が可能となっている。

注2) 「幼稚園設置基準」、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」(認可保育所)、「幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準」によって、園庭面積の最低基準が定められている。また、幼稚園については幼稚園設置基準とは別に「幼稚園施設整備指針」があり、園庭計画のより具体的な指針が示されている。

引用文献

- 1) 小池孝子, 定行まり子「都市部における保育施設の屋外保育環境について 東京都区部における複合型保育所の施設環境に関する研究 その2」日本建築学会計画系論文集, 第73巻, 第628号, pp.1197-1204, 2008年6月
- 2) 松橋圭子, 三輪律江, 田中稲子, 谷口新, 大原一興, 藤岡泰寛「保育施設における屋外環境と園外活動の実態からみた地域資源のあり方に関する研究—横浜市を対象としたアンケート調査より—」日本建築学会計画系論文集, 第75巻, 第651号, pp.1017-1024, 2010年5月
- 3) 三輪律江, 尾木まり, 高辻千恵, 田中稲子, 谷口新, 松橋圭子「保育施設の「屋外遊戯場」としての公園の代替利用に関する研究」住宅総合研究財団研究論文集No.35, 研究No.0714, 2008年
- 4) 田中稲子, 三輪律江, 松橋圭子, 谷口新「横浜市における駅前保育施設の園外活動の場としての街区公園利用とその評価に関する研究」日本都市計画学会 都市計画論文集, No.44-3, pp.373-378, 2009年10月
- 5) 山田あすか「東京都内の種別が異なる小規模保育拠点における都市環境の利用・評価に関する研究 小規模保育拠点とその保育の場となる都市環境のあり方についての研究 その2」日本建築学会計画系論文集, 第81巻, 第723号, pp.1069-1078, 2016年5月
- 6) 菊池達夫「幼稚園・保育所における散歩活動の実践例とその特色」北翔大学短期大学部研究紀要, pp.1-13, 2010年
- 7) 森英子, 横松友義「保育園の「園外へ歩いて出かける活動」に関する保育課程編成時の留意点—カリキュラムマネジメントの観点からの考察—」兵庫教育大学教育実践学論集, 第15号, pp.101-111, 2014年3月
- 8) 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館, 2018年3月
- 9) 厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館, 2018年3月
- 10) 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館, 2018年3月
- 11) 福岡市こども未来局子育て支援部「令和2年度福岡市保育施設等利用のご案内」
- 12) 福岡市私立幼稚園連盟 HP, <http://www.fyr.or.jp/> (参照日: 2020.11.9)

